

当協議会会員様の取り組み好事例

松井エネルギーモータース
(コスモ系)

富山県内で2カ所のSS（フルサービス店）と自動車整備工場を運営する、松井エネルギーモータースの松井健彰社長に伺きました。

一一御社の概要についてお教えください

松井エネルギーモータースの創業は1970年、ガソリンスタンド事業が出発点です。

本拠を置くのは、富山県中新川郡上市町です。

上市町は現在、人口1万7900人。全国平均0.48%の人口減少率に対して、上市町は1.48%。高齢化率（65歳以上）に至っては、全国平均のそれ（29.1%）に対して上市町は38.3%。約4

割が65歳以上という人口構成比です。

直営2カ所のSSは、燃料油の需要減退傾向を背景に、販売数量を減らし続けています。



私が家業入りをしてから30年、社長に就任してから15年が経ちます。社長に就任したころは、街道沿いの有力SSに押されがちで、また、地域の人口も減り続けていたことなどを背景に、私が

80歳の年齢に達するまで、従業員が定年を迎えるまで事業を続けられたらいい、そんな事を思ってしまうような状況でした。

一どこかのタイミングで変わるきっかけを得た、ということですか

そうですね。社長就任時、経営理念を策定・再構築し、以来、その浸透化を図り、日々の行動規範まで落とし込めるように努めています。

経営理念として真つ先に掲げたのは、「地域社会への貢献」です。

地域のリーディングカンパニーとなり地域社会をけん引するのだという、当社の決意、基本姿勢を示すものです。

燃料油販売に止まらず、車両整備・車販・保険その他、トータルカーサポートを提供できる会

社でありたいと考え、その行動を取り始めたのです。

この時点ではまだ、ガソリンの売り上げが全体の8〜9割を占めるという状況でした。この比率が少し下がってきたのは2013〜14年。上市町が、消滅可能性都市として公表された頃です。

松井エネルギーモータースの創業者は、私の祖父。地域の方々のお困り事に対し、真摯に声に耳を傾け、その期待に十分に応えることで成長してきたのだと改めて気付かされました。

カーライフをトータルでサポートすること、それが当社の事業定義だったのですが、いや、それだけじゃないなど。

地域のためにできること、すべきことは何だろうか。よくよく考え、導き出された答えは福

祉車両にかかわる業務でした。

一一なるほど。そういう経緯で福祉車両事業に参入されたのですね

そもそも、デイスービスをご利用する方々が当社SSにご来店した際、代車がなくて困っているという声を聞いてはいたんです。

けれど、当時は、福祉車両について何も知らなくて。

いろいろと情報を集めた結果、全国総合福祉車両協議会の存在を知り、福祉車両の修理に関することだけでも聞けたらいいと思って、連絡をとってみたのが、事の始まり。全国総合福祉車両協議会に加盟したきっかけです。

その後、所定の研修（4日間）を受講した上で、当協議会代表理事・稲垣氏のアドバイスのもと、ハイエースのリフト車1台

を代車として購入し、福祉車両事業をスタートしました。

一一最初は、どんなことをしたのですか



当社の周辺地域には、デイスービスや介護施設が〆拠点ぐらいいありまして、そのすべてに案内チラシを配布しました。

「当社には、福祉車両の代車がございます。修理でお困りの際は無料でお貸し出しをします

ので、お声をかけていただけるとお役に立てると思います」と。

さらに一筆、「当社は、介護に関わるすべての方々の協力者になります」と書き添えたのです。

そのように発信すると、ありがたいことに多くの方々より反響をいただきました。

福祉車両事業を立ち上げた当初から、当社が提供するサービスのご利用者が保有する車両についても深く関与できたわけではありません。

私どもが置かれた立場は、あくまでも協力者です。この立場を踏み外さないように配慮しました。

「米寿祝いの記念写真を撮りたい。紅白幕はあるか」「自宅に手すりを設置したい。地元の業者を知らないか」とか、そんなご相談事にも親身になって寄り添

っていくうち、当社の信用・信頼を得ていったのです。

「困った時に助けてもらったから、次からは、松井さんのお店でガソリンを入れるわ」

「保険は全部、松井さんのところでお願いするよ」

今度、「福祉車両を購入したいから、見積もりを出してほしい」などとなっていたのです。

一一代車は現在、どのぐらいの数を保有していらっしゃるのですか

代車は、ハイエース一台とスロープ付きの軽自動車が2台です。

保険会社様からは、レンタカーとして貸し出しをしてもらえないかと向けられたりもするのですが、お断りしています。

それをしてしまうと、地域の方々のご要望に応えられなくな

ってしまいうからです。

上市町と隣接する立山町と、滑川市を含めた「万人ぐらいの域内をひとつの商圈」ととらえています。福祉車両を切り口として、車に関する様々な場面でお客様とより深く関わっていく、という事業方向性を明確にし、日々取り組んでいます。



その甲斐あって、当社の売上高は現在、福祉車両を事業化する

る以前と比べ倍程度にまで伸びています。

売上高に占める割合も燃料・整備・車両販売それぞれが約3分の1ずつを占め、安定しております。

――松井エネルギーモーター様の事業展開における、全国総合福祉車両協議会の存在意義を教えてくださいませんか

「福祉車両は、消費税がかからない」などと基本的な事柄から教えていただき、きちんと身につけることができました。

福祉車両の修理方法や、また、どんな箇所・部分が壊れやすいとか、その原因についても正しく学ぶことができました。

福祉車両に関しては、自動車メーカーを含めて専門家がいなのが実態です。ですから、修理方法などを直々に聞けるだけで

もありがたいのです。

しい限りです。

福祉車両に関する内容だけではなく、スタッフ採用のコツ、案内チラシの効果的な配り方なども相談できるので、そのノウハウを見聞きして覚え、そっくり実践できたのは大変ありがたいかったですね。

当社の福祉車両事業は今や、「ありがとう」の言葉であふれる事業へ成長を遂げています。

それもこれも、全国総合福祉車両協議会様のご協力と支えがあったからこそ。

本当にありがとうございます。引き続き、これからもよろしくお願い致します。

一一「ありがとうの言葉で溢れた事業」一好循環が生まれている様子が手に取るように伝わってきますよね。こちらこそ、ありがとうございますお言葉を頂だいし、嬉